資 料 1

デジタルメディアリテラシー啓発サイトに掲載する事例（案）について

令和４年１１月７日
人権・同和対策課

１　概要

インターネットの普及により今後ますますデジタル社会の進展が予想される中、インターネット上では、情報の利用者、コミュニケーションをする人、情報発信者、クリエーターそれぞれの「境界」が曖昧になっている。インターネットは公共空間であるため，公共における作法，ふるまい，影響を意識しつつ，情報の扱いに関して人権に配慮することが必要であり、独りよがりや自己満足にならないために**批判的に考え、責任をもってテクノロジーを使用して、学習、創造、参加する**「デジタル・シティズンシップ」に基づき行動していくことが求められている。また、多くの人に興味を持っていただけるようイラストレーターに３事例についてマンガを作成いただく。

２　事例（案）

（１）コミュニケーション編

・正しい情報であっても，誰かを傷つける可能性はないか，立ち止まって考えることが必要である。個人が外部に向かって思想，意見，感情を表明する権利はあるが，その権利は個人の人権が尊重されて初めて保障されることを知る。

ア　マンガの事例

1	Ａさんは刑期を終えて出所した。自分の犯した過ちを深く反省し、更生を誓っている。ＡさんはＺ町にアパートを借りた。
2	Ｂさんは、Ａさんが刑を終えて出所した人だという情報を知り、安全のために友人に伝えなければならないと思い、SNS上に「Ｚ町の〇〇というアパートには、刑務所から出てきた人が住んでいるので、気を付けよう」と投稿をした。
3	Ｂさんの投稿は友人だけではなく、拡散されてしまった。
4	Ｂさんは個人のプライバシー侵害などの民事上の賠償責任を追及された。

イ　ポイント

＜デジタル・シティズンシップ教育の推進＞

トラブルに発展した場合、デジタルシティズン（デジタル社会の善き市民）となるための資質を活用した思考ルーチンを活用しよう。

【善きデジタル市民となるための育成すべき５つの資質】

〇オンラインで立ち止まり自分の行動を省みることができる。
〇他の人の気持ちを考え，市民としての責任を考えることができる。
〇情報の出どころや内容をよく確かめ，正しい情報かどうかを確かめることができる。
〇自分や他の人への責任や影響を考えて，とるべき行動を考えることができる。
〇オンラインでとるべき行動を決定し，必要な時は助けを求めることができる。

※上記の資質を発達させるための思考ルーチン

①「感情を確認」（悲しい、不安、怖い、心配または不安感がありますか。）
②「原因を特定」（その感情につながった原因は何ですか。それは、あなたや他の誰かが言ったことや行ったことですか）
③「対応を検討」（どのような行動の選択肢が実行可能ですか。その選択肢を実行した際の良い点と欠点は何ですか。）
④「行動の準備」（前向きな方法で行動し、対処するための準備を考えましょう）

【出典】デジタル・シティズンシップ　プラス（著者：坂本旬氏、今度珠美氏ほか６名）. 大月書店, 2022, P45

【Ｂさんの立場から考えてみる】

〇今回のケースに係る思考ルーチン

１．なぜ投稿してしまったのか。 ２．どのような行動をとるべきだったか。 ３．とるべき行動がとれなかったのはなぜか。 ４．とれなかった理由はどのように乗り越えることができるか。	⇒インターネット上は公共空間なので、責任のある行動が求められる。時には民事上の責任を問われる恐れもある。例え単なる事実を悪意なく投稿したものであったとしても拡散されてトラブルに発展する可能性があり、発信してはならない情報もある。個人のプライベートな情報を公開してはいけない。
５．周りで見ていた人がすべきことを検討する。	⇒周りで見ている傍観者ができることを考え行動することで状況を変えられることを知る。

※デマやフェイクニュースを拡散することはもちろんいけないことだが、正しい情報だからといって「不当な差別、偏見、その他不利益が生じるような情報を発信してはいけないこと」を発信。（カミングアウトとアウティングの違いを紹介）

（２）セルフコントロール編

・オンライン上では、その場の感情や雰囲気に流されて行動すると、取り返しのつかない事態に発展することがあるので立ち止まって考えて相談してみることも大切。

ア　マンガの事例

1	大学に合格したＡさん、Ｂさんは、いち早く人とつながりたいと思い、その大学の非公開 SNS グループに参加。グループ内で、ある生徒が性的マイノリティを嫌うような差別的な言葉を投稿した。
2	Ａさんは、その投稿を見た時に「大学で新しい友達を作りたい」という気持ちから、「同感」を返信しようとしたが、差別的な投稿に対する自分の気持ちを確認して思いとどまった。
3	その後、Ａさんは同じクラスのＢさんに自分の意見を伝えたところ、Ｂさんもそのように感じており、Ｂさんは「差別的な投稿は許されるものではない、行ってはならない」と返信した。
4	数週間後、大学の審査チームが、このＳＮＳグループ内の差別的な投稿に関する通報を受けたため、調査することとなった。
5	大学側は、差別的な発言をした生徒の入学を取り消すという判断を下し、「同感」を返信していた生徒にも同様の処分を行った。

（出所）著者：坂本旬氏、今度珠美氏ほか 6 名．デジタル・シティズンシップ　プラス．大月書店, 2022, P114-120 の内容を編集

イ　ポイント

＜バイアスミナオスの活用＞

Ａさんは「大学で新しい友達を作りたい」という気持ちから、「集団同調性バイアス」に陥りかけていた。このバイアスの特徴は、自分の判断に自信が持てないときや少数派になることを恐れる心理が背景にあり、周囲と同じ行動をとることが安全と考えてしまうところにある。

・Ａさんの立場から　「新しい友達を作りたい」という気持ちから、「集団的同調性バイアス」に陥ったが、立ち止まることができた。そして、自分で考え相談するという行動をとることでトラブルを回避することができた。

・Ｂさんの立場から　アップスタンダー（※）としてふるまうことができた。

※何かが間違っていると認識したときに、声をあげたり行動したりする人

⇒オンライン上では、行動する際には、立ち止まって考え、行動することが大切である。

（道路を渡るときのように、①立ち止まる、②考える、③相談する、という３つのステップを確認。）

⇒困ったときは、相談するのも一つの方法（相談窓口のリンク）

※性的マイノリティの人権についても発信（県 HP リンク）

（３）情報発信編

・人権などへの社会的配慮の足りない情報発信は他人の人権侵害などを引き起こすことがある。

ア　マンガの事例

1	Ａさんは、とある会社の社長をしており、海外によく出かけている。
2	Ａさんの親が体調を崩し、Ａさんは実家に長期間滞在していた。
3	Ｂさんは、長らくＡさんの姿を見かけなかったことから「Ａさんは海外に出かけることが多いので、コロナに感染したに違いない」と思い、SNS上に「〇〇会社のＡ社長はコロナに感染したのではないか」と投稿をした。
4	この投稿が拡散し、Ａさんの経営する会社の配達事業は次々に契約を解除されてしまった。

イ　ポイント

＜バイアスミナオスの活用＞

Ｂさんは、社長のＡさんはよく海外に行っているという思い込みがあり、長らく見かけないことで、この思い込みが確信に変わり、SNS に投稿してしまった。

Ｂさんは「確証バイアス」に陥ており、このバイアスの特徴は、自分の中に元々ある特定の物事や人への思い込みを確信に変えるところにある。

・B さんの立場から　思い込みの投稿から迷惑をかけてしまうこともあるので、情報の発信前には注意が必要

・拡散した人の立場から　真偽の分からない情報は拡散してはいけないし、例え本当の情報であったとしても個人にプライバシーを侵害するような投稿の場合も拡散してはいけない。

⇒元々ある思い込みについて立ちどまって考え、勝手な思い込みを取り除く。

⇒真偽の分からない情報は第三者の意見を取り入れて、ファクトチェックを行う。

※情報に向き合う5つの視点（質問）

情報を扱う場合に思い出してもらえるような工夫・啓発が必要

①このメッセージは誰が作成したものですか。

②私たちの注意を引くためには、どのようなテクニックが使われていますか。

③人々はこのメッセージをどのように解釈するのでしょうか。

④どのようなライフスタイル、価値観、視点が表現されていますか。あるいは欠けていますか。

⑤このメッセージはなぜ送られてくるのですか。

※人権と民主主義のための情報社会を構築する善き市民となるために、日頃から人権等について関心を持ち学ぶ。

※「感染を責めることは誰にもできない」というメッセージや「感染症等病気にかかわる人の人権」について発信（県 HP リンク）